

# 全国戦跡シンポに400人

## 3 日 間 館山舞台に 公開討論や事例発表

「第19回戦争遺跡保存全国シンポジウム館山大会」(戦争遺跡保存全国ネットワーク、同シンポ実行委主催)が7日までの3日間、館山市の南総文化ホールなどであり、戦跡保存活動をする全国の団体や大学関係者など約400人が訪れ、戦跡を活用したまちづくりの取り組みや館山の「直接軍政」に関する分科会など、どこに耳を傾けた。

初日の5日は「戦跡と文化財を活かしたまちづくり」をテーマにパネルディスカッションがあり、約400人が訪れ、戦跡を活用したまちづくりの取り組みや館山の「直接軍政」に関する分科会など、どこに耳を傾けた。

館山市からは主任学芸員の池田英真さんが、年間入館者が2万人を超えた赤山地下壕、古い商家、民家を活用した長須賀のまちなか再生などの事例を発表。

取り組みに触れ、館山を訪れる目的は、海水浴より戦跡など文化財見学のほうが多くなっていることなどを紹介。

NPO法人安房文化財遺産フォーラムの愛沢伸雄代表は、これまで20年以上にわたる地域の戦跡、文化財の保存、活用、平和学習などの活動を語り、



4人によるパネルディスカッション＝文化ホール

り、「足元から平和のありたい。文化財を平和に生かすピースツーリズムを創出したい」と訴えた。

2015.9.8. 房日